

刊夕日二十月九

常磐每日新聞

定価(一部金) 一月五拾五圓 郵税別
廣告料 五圓 十二字 一行 金五拾圓
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式会社

解脱味と處世術

真繼、雲、山

近時の社會相は、萬事が薄ッぺらで、人間の智慧が足りないから、肩書や風彩だけでも結構、飯は食うてゆける。蛙の眼玉の研究で博士になつても、醫學博士といふことなら、色魔博士の向ふは張れる。茫々たるアゴ鬚をこいて豪傑風を吹かしてをれば、それでも馬鹿共の投票が人並にもらへる。

理想としていへば、肩書があつて、風彩がよくて、金があつて、頭がよくて、健康であれば、眺へ向きであるが、悲しいかな天は二物を與へない、その代り必ず一物だけを與へてくれる、それを福田とはいふのである。

他人が法螺で飯を食うてゐるからとて、社會のヘタな風彩の貧弱な男が外交員を志願すれば百にもならない。人生の世渡りは、自己に與へられた一福田の何であるかを認識して、その一筋道に邁進するのが成功の要訣である。

斯く申す私にも、佛教方面の實地に乗り出して社會的に活動せよと引つ張り出しに來てくれる篤志家も

少なからぬ。御好意千萬忝じけないが、生ひにくと私には然うした方面に興味も熱もない。それといふのがその方面に福田の持ち合せがないといふことになるのである。一つは謂はゆる宗教家の内幕心事を餘りにも知り過ぎてしまつてゐる故もある。

西郷隆盛は「人を相手とせず天を相手とせよ」といつた。聖徳太子は「世間これ虚假、佛法これ真」と仰せられた。親鸞聖人は「よろづのこと、そらこと、たわこと、まことあることなし」と申された。

事實、口先では、道德の宗教の、へちまの、涼しさうなことを言ふてゐても結局、人間といふ動物は上の方なやつほど、他人のため動くやうな顔付をしてゐて、その實、自分の名利のためにのみ動くものだと

いふ正味相場が分つてみれば、狐と狸とだまし合ひの仲間入りはマア御免といふことになる。日本で最もニライといはれる階級の人たちが、名譽と終身歳費何千圓附の勅選議員とやらに、如何に成りたがつてゐるか

といふ下等な心事を洞察して見れば、思ひ半ばに過ぐる。餓死線上にある農村と中小商工業者の疾苦を思へ

ば、税金の血のかたまりである歳費などは夢にも受ける氣がしないといふのが佛様の心事であり、ホク／＼のもので、それを懐中にして歸り、翌日は涼しい顔で農村救済策を叫び上げるのが大官や凡夫の淺ましきである。

さうした見透しがついで見ると、今更らその連中の尻馬に乗るほどの氣もしな

い。私が斯うして佛法を講ずるのも、衆生救済の悲願に燃えつゝなどといふ固い眞つ赤の氣分はなく、我が滅後千載に知己を得ば可といふ程度の靜かな自然の態度であり、言はば見る人もなき谷底に山櫻が咲いてゐるにも等しいのだ全く解脱味に入つて見ると、さうベタ／＼と物事に執着する程のことはない。

凡そ人生にありて、不向な方面に力瘤を入れ、一生懸命になるのは、坂に車を押す如く、勞多くして効少し、恰もこれ生あれば死ありと知りつゝも、死にとむないと藻掻いてゐるやうなものだ。世は厭はしからずとも死は免れずと思ひ取り

て、後の世の求めをば、ねむごろに勤むべし。他の福徳を羨むことなく、己れの福田に培ふが、處世の要



父

荒、定、雄

訣といふものである。(完)

(2)

翌くる日、父は夕ぐれに黒い土を覆つた。ぞして、初七日の夜だつた。父の手向けた線香を焚きに来た大だが、皆んな歸へつてしまつたあと、泰治は、淺燈の光りのしたで蚊にヤンヤ螫されながらまどろんで居る幼い弟妹だちをつくねん眺めて蚊を追ひやつて、妻に、淡々と言つた。

「とうとう、お父つちやんも死んちやつたんだな。お母ちゃんも死ぬ、と、それから男手一つで襲撃して來る食之と死物狂ひになつて闘ひながら俺だち兄弟を育て、毎日、日、日減つて行く猫の額ばつかりの田地をなくすまい、無くすまいで、働らひて、働かぬいたあげくの果、心臓痙攣と來て死んちやつた。父の生涯は、まるで苦勞の塊のやうなもんだつた。デダラメで、腰をいつちけるにもいつちけられないやうな、ちつばかりの田地なんか持つて居ると、ロクでもないことしきや、ありやしないんだ。勞働狂になつて、おまけに借金で首が廻らなくなり喰ひななつて、さ、お父ちゃんなんかさう言つちや氣の毒だが、そ

の標本だ。標本は酷ひか、が、とにかく、俺も祖先ゆづりのこのちつとばかりの田地のお陰で勞働狂になりこんで食之と首つ引き、しながらお父つちやんのこのヒマをやらなくつちやならないのかと思ふとウンザリしつちやつまうなだが、しかし、このちつとばかりの田地がないと、俺だちは、餓死するしかないんだから皮肉なものだ。」妻は惘鬱に苦笑した。ふと瞬間、なにかにおびいたものゝやうにイキナリ妻の腕のなかで唱が、したゝか聲を絞ほつて泣いた。泰治は狼狽はつた。と、前のキユウリ畑が雑草にもれ上つて居るのを思つた。けれど、彼は、死んだ父が堪らなく懐しくなつて、頭から雑草を追ひのけよう、と、焦つた、ずつと昔、死

藤沼醫院

平町紺屋町 電話五〇七番

んだ母も、父と同じく過勞のため貧乏に締め殺るされたのかも知れない。そして彼の妻も母のやうに黄色く秋の銀杏の葉見たいに凋びて死ぬかも知れないのだ。彼は、慄然とした。が、妻は無心に唱を揺ぶる乍ら、子守唄をくつたなく、唄つた。 (完) 一九三二・九・二

中村齒科醫院

平町鍛冶町七

ツブシ 金銀 高價買入

修繕 迅速 可寧 廉價 星野時計店

平三丁目驛前通り

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

大和田醫院

平南町 (電話一七〇番)

イヤ！ 君！
いゝ冬服を求めたね
断然三二年型だよ
いやコレカネ！
例の……ソレ！



六三四電通場車停目丁四町平

外科

門專 科線光 X

上田外科病院

平町南町 電話一二九番

失業救済

工事が開始

愈よ今明日から

延人員一萬五千餘使用

平土木監督所では縣の失業救済工事としての石城郡山田村字蛭坪地内神谷村字中神谷地内荷路夫村宇宿家前地内、川前村字柵木地内等四道路の改修工事を今明日中より愈よ着工される事となつたが是には延人員一萬五千餘の工夫を使用する豫定なので同所員は非常な多忙を極めて居る

金成氏祝賀と

議會報告演説

來月上旬を期し

政友部會の總會

石城政友部會にては昨日午後一時より大村屋旅館に鈴木、佐藤兩代議士を始め他の最高幹部參集、來月上旬を期して貴族院議員に當選した金成通氏の祝賀會及び佐藤、鈴木兩代議士の議會報告演説會を開催する事に決定したが同時に東京より大臣級の本部幹部を招き政談演説會を催すと共に部會の總會を開き宣言決議及び役員改選等を行ふ由

自動車で

農事視察

中堅農民が

石城郡農會の中堅農民講習會員七十三名は柴田村、引

村縣立採種場、同郡新井田村大島農場等を各視察の上同日夕刻歸平すると

体操試験委員

磐城高等女學校教諭永島磯惣太氏は來る二十八日平第一小學校々庭に於て行れる尋常

女生徒の

正服を一定

可憐なセーラー型

貧困児には無償で交付

平第二小學校保護者會多年の懸案であつた生徒の正服一定は其後他地學校の服装等と比較對象して種々研究中の處此程漸くセーラー型の成案を得たが夫れに依ると冬着一着二圓五十錢の廉價を以つて調製し得然も長年月の使用に耐え得るに進展の際には線を外せば其儘使用出来る等の特長あり貧

「必ず勝つ」

涙ぐましい光景

昨日の磐女選手壯行會

既報磐城高等女學校に於ける縣体育大會出場選手壯行會は昨日午後一時より校庭に於て四年根本マサ子さんの開會の辭に始まり四年鈴木イエ、三年柳本マサ、二年有坂トシ子、一年白土ワカ諸嬢の激勵の辭あつて選手

好間道路

改修着工

石城郡好間村では今回の巨救事業費として一萬六千九百三十二圓を割當られたので村内の道路改修工事を進行事となり去る二十二日より着工したが工事費の大半は人夫賃とし一般農民を滞す豫定である

山田農業視察

郡山田村農業實行組合では明廿三日組合員十餘名が草野村に於ける競作田の視察を行ふ事になつた

兒童競技準備

石城郡第三區兒童競技委員會は來る廿七日午前九時より平第一小學校に於て開き選手名簿作成其他の協議をなす

梨果の出廻り

漸く最盛期に

寒さが早い模様で捌け口を心配さる

石城郡農會では愈々梨果の出廻り最盛期となり東京市場への出荷も盛んである爲め是れが販賣輪旋の用務を帯びて昨日同會内田書記上京したが出荷成績は昨年の十三車と大差なく値段も殆ど同様と見られて居るが本年は寒さが早い模様である爲め梨の需要期も短期に終るではないかと心配され盛んに賣り急いで居ると

蘭市況

△四倉市場

(白蘭)百六十八貫(最高)四十七圓十錢(最低)四十圓六十錢(馴)四十四圓五十錢

平職業紹介所報告

求人部 シン見習 十七名

卒 仕着小遣(東京市某) 給料面談(四倉町某)

△納豆製造見習 十八才 尋卒 月三四圓(平町某)

△豆腐賣子 三十以下 尋卒 賣上ノ二割(相馬郡某)

△女中 四十五才 無學 給料面談(大野村某)

△女中 四十五才 無學 給料面談(平町某)

△コック 二十六才 高卒 給料面談(相馬郡某)

△大工職 三十七才 尋四 給料面談(新潟縣某)

紙質純良・印刷鮮明 御名前入用箋 百枚綴一冊廿錢(三冊以上割引有) 平・長橋 常磐毎日印刷株式會社 (電630)

市原醫院 平町田町 電話一四番

貸切の御用命は! 獅子吼(四四九)ノ勢デ 眞先ニ (マツサキ) 三九ニタクシーへ!!!

高久病院 院長 醫學士 高久忠 副院長 新潟醫學士 赤羽清 藥局長 藥劑師 佐竹菊雄 内科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科 平町田町 電話五一三番

水中の大爆發

けふ市街戦の呼び物

演習無事に完了す

平在郷軍人分會の平市街戦は今晚五時より昨報の如き攻防兩軍に依つて戦闘を開始し本町通、大町通、田町通の主要道路及び各横道町角毎に猛練な小銃輕機銃の戦闘が交はされ防禦軍は除々に退却して午前七時半研町公園下一帯の突撃戦にて一先づ戦闘中止となり約一時間休憩して愈よ

最後の呼物たる水中爆發の第二次戦に移り御厩方面より攻撃を開始した東軍は八時半頃

新川に架設せる橋梁を轟然たる大音響と共に爆破して突撃肉迫し茲に戦闘は終つて忠魂碑の參拜各隊の分列式を行ひ無事完了した

し問題は一先づ解した

熊野神社改築 平町

仲間町熊野神社は腐朽甚だしので工費千五百圓の豫算にて改築する事になつた

實る秋

検事局も手心

召喚檢束拘禁等に

相當考慮を拂ふ

平檢事局にては實る秋の農繁期に入つた場合農家の都合を考慮して事件關係者の召喚檢束及び拘禁等に付いては相當の苦心を加へる事となつた

無條件で

辭表撤回

小名組頭問題一先づ解散す

既報平町六七丁目青年團主催貧困兒童救濟演藝大會の會計報告に依ると總收入九十四圓八十錢、總經費卅六圓四十四錢、差引純益五十八圓卅六錢を町役場に寄附

純益寄附

六七丁目青年

既報石城郡小名濱町消防組頭排斥問題は一時猛烈を極めたが過般來仲裁役の鈴木同町長及び鈴木富太郎、矢内由之助の兩消防防門が一週に亘つて調停の結果去る七日辭表提出中の組員四十一名が無條件で辭表を撤回

暗の中から

突然自轉車

行商女驚いて轉倒

石城郡豊間村字薄磯魚行商人河田セキ(三)は昨夜九時頃平町字三倉地内を通行中前方より疾走し來つた無燈火の自轉車を避んと傍の溝に轉落し顔面に全治一週間の打撲傷を負つたが自轉車は其儘逃走し去つたので平署で捜索中

横領事件公判

石城郡上遠野村大字上遠野自動車營業鈴木子之吉(五)の横領事件は來る二十八日午前九時より平支部公判廷に於て中島裁判長係り關口竹内兩判事陪席市川檢事立會門傳辯護士列席の下に公判開廷される事になつた

行倒れた老の身

冷たい病舎で絶命

何處の者とも判明しない

昨夜午後七時半頃平町字六人町十一番地、地内で住所姓名不詳労働者風の六十前後の老人が行倒れて居たのを各地に照會中である

で行路病人として病舎に收容した處同八時半頃絶命したので町役場では同人身元を各地に照會中である

明日のラジオ

廿三日

報豫氣天

今晚も明日も北東の風曇り勝ち小雨模様でございます

今晚の部

後六、〇〇(子供の時間)少年講談「會呂利新左衛門」野村無名庵

後七、三〇講演「ロサンゼルスより歸りて」寶田通元河内三省島浦精二

後八、〇〇ラヂオ風景「サンゼニヤ國のラヂオ」水島爾保布作

後九、〇〇連續講談「天保六花仙のくらやみの丑松」四席 神田伯龍

後九、三〇滿洲より

明日の部

前六、三〇佛敎講壇「原人論」梅檀中學々長 櫻井肇山

前八、〇〇彼岸會法要狀況「東本願寺より中繼」導師南禪寺派管長赤井義勇外

前九、三〇子供の時間兒童劇「のらくろ二等兵水兵の母」長谷山雅菊音樂會

通風口から

賊が忍入

白米を窃盜

石城郡磐崎村字大畑精米業芳賀武平(三)方へ去る廿日夜精米所の通風口より忍入り白米五斗及平麥三升餘を窃取逃走した者があるので届出に依り平署で目下犯人嚴探中

教へ子の父兄から

四家訓導へ見舞金

既報平第二小學校元訓導四家安男氏の教へ子である二年三組生徒の父兄有志は同訓導への同情金五十三圓を據出したので津田校長及び蛭田訓導同道四家氏を訪ねて寄贈したと

萩原縣議の

立關先から

石城郡内郷村字高倉居居春吉次男鈴木一夫(一)假名は去る廿日平町鎮治町縣會議員萩原義雄氏方立關より時

代議士が一名の

貴族院議員二名

昨日の政友石城部會の幹部會で參會者の一人が「何しろ本郡は代議士二名の上に貴族院議員一名を持つんだから豪勢なんだ」と鼻うごめかせば鈴木代議士「イヤ代議士

平町人事

△播穂小路二四 當時茨城縣多賀郡關南村字仁井田

一九 市原伸二氏三男滿

△鎌田町三一 當時東京市外北豊島郡板橋町八三七

佐藤芳太郎氏二男功

△三丁目五八 當時京城府吉野町二丁目一三三平作次郎(六三)

前二、〇〇宗教會話「彼岸の教理」文學博士境野黃洋

前四、〇〇講演 神戸南大講師坂西由藏

前六、三〇講演「西南戦争と大西郷の事心」日本及日本主事 雜賀博愛

後一、五〇手古舞木遺音頭さた外

後二、一〇清元「彌生の花淺草祭」(三社祭)清元正太夫

後三、三〇吹奏樂 東京シテ。バンド 指揮久松鑛太郎

後四、五〇運動競技(六大學野球リーグ戰試合狀況)早稲田對立教一回戰

後五、〇〇漫談放送舞臺劇(野球放送なき場合に限り放送す)

後六、〇〇子供の時間獨唱「第一部岩手縣花巻尋常小學校兒童 第二部花巻高等女學校生徒四年福岡テイ

後六、三〇講演「祖先崇拜の本義」今泉定助

後七、三〇讚佛歌 仙臺市本郷運廣外

後八、〇〇尺八「ナポリ民謡サンタルチア外」一部 石田晴童 二部 北越晴芳

後八、三〇哥澤 淨瑠璃哥澤芝加陸太夫 三味線哥澤芝壽春

後九、〇〇連續講演「天保六花仙關の丑松」終席 神田伯龍

慕来剣士

【禁轉載上演及映畫】
悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲畫

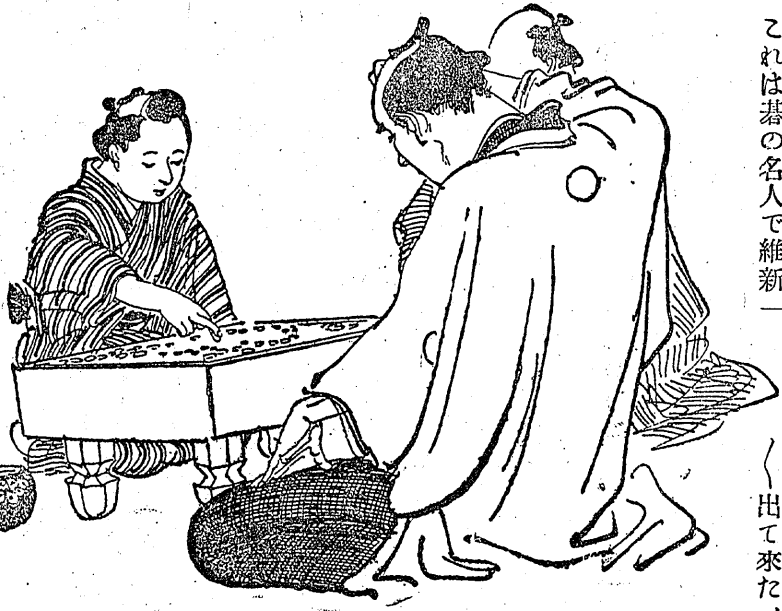
第一百五十八席 女流劍客里見静枝

門人平手酒造

東條一堂先生の許に居つた静といふ若き女を千葉周作先生が小間使ひにいたした、一堂の話によると行儀見習ひの爲めに武家奉公をいたし度いと上總から出て来た者であるとの事、周作先生は静や静やとこれを愛してゐた、愛せばとて美貌に惚て危険思想を拘いてゐるわけではありませぬ、何しい千葉の道場に參る者は皆肩胛をいからして荒木又右衛門、宮本武藏が今の世に居つたならば一と打にいたしてくれようといふ強がつた人ばかりお面お小手お胴……ドタリバタリ參つたなどと誠に色氣のない空氣の漂ひ居る此處にお静の如き美人がある事とて目につく、萬縁叢中紅一點といふ詩句を思ひ出す、千葉の門人では海保半平、東海林辨吉等が傑出したして居る、その上に居るは平手酒造、これは奥州の出身とか、又常陸の豪士であつたと申す者もある、十三才の時から周作先生に就て劍術を學びましたが、初めて竹刀を取つた時に目録の技があつたさうで、シテ見ればこゝ

天才地震などもてんさいですが、これは意味が違ひます、天災ほど恐ろしいものは無い、てんさい序に申上げるが演者が生れた本所相生町二丁目徳川家より扶持を受けた本因坊が居ました、これは基の名人で維新

う一ツ飛んで九段、その上が常燈明、九段を上り切ると石で疊み上げた塔があるこれへ灯を點けるからこれを常燈明といふ、大したもので一昨年の地震にも工學博士が設計した家屋又は倒れたものがあるが常燈明の塔はビクともしない、然し塔ですから名人とは云へない然し九段からは名人といふ本因坊は十一の時に初めて石を持ち廿二の時には七段打つた、演者の親類が浪山の酒造家だが、基が天狗で江戸へ出て来て本因坊と手合せをしたといわざう出て来た、そ



後は徳川と商つてゐた、安政の頃ですが此當時の本因坊は十一才の時に初めて碁盤に向つたがその技倆は初段であつたさうで、これも天才でございます、それになくは九段にはなれない、八段からは名人と云ひ、も

こで演者の親父が伴れて行き、どうぞ先生相手をしてやつて下さいと頼むと本『承知しましたが今碁經を調べてみますからそれまで其處に居る小僧と一局やつて待つて下さい』

と云つた、こゝで親類の者が小僧を相手にバチ／＼と嘔ると美事に負た、負たに美事などは有難くないが茲に於て自稱名人びつくりして小僧ですらこれ程の手續がある、とても本因坊と手合せは出来ないおつぼを捲いて逃げ出したさうです、どういふ空氣の摩擦からてんさいが出来るか不思議です、まだその他にもてんさいがある、これは深川の人ですが、鐵の火箸で水の中にある蛤を挟む、これはなかなか出来ませぬ、然しこの人はこれより他には優れた技能はない、これは火箸のてんさい演者などにもてんさいのひらめきがある、子供の内遊ぶことにかけては名人であつたが、これはてんさいでも質が悪い、獨樂を廻したり、橋の欄干を駈出したたり、本所回向院の大家根へ上つて鳩の玉子を探したとててんさいとは云はれない、只役にたつたてんさいは水泳、これは震災の時に深川の萬年橋から飛込んで中洲へ泳ぎついて先命を取止めた悪戯のてんさいで役に立つたはこればかり然しこんでんさいは度々役に立つては堪りません、倍千葉の道場で平手酒造が代稽古をする一面で五十人位教へたさうです

造『さア、此方へ出る、一本教へて遣る今日は痛いぞさア參れッ』
ビタリと竹刀を附けると前に廻つた者は慄へてしまふそれは氣合に打たれるため

か實に酒造は斯道の奇傑であつたが素行は甚だ宜しくない、酒にのみしたしみ居る、然し泥のやうに酔つて居る時も竹刀を持つと別人のやうになる。

三井タクシ

平町二丁目

電話六八五番

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める川崎巡回文庫 (申込次第規則書進呈) 電六三〇番
看護婦急派の求めに應じます
平町南町 平看護婦會 電話三〇七番



毛糸

本年度新色全部揃いました
御値段は昨年と同じで差上り
ます
一オンス 十五銭
〔見本帳進呈〕
蜀 三毛下ヤ糸店

季節御料理

柳川一人前 金二十五銭より
うな井 金三十五銭
蒲焼 金五十五銭より
右大々勉強出前迅速
◎滋養豊富! 風味美味!
是非一度御試食を……
大蒲焼・鳥料理
壽司・折詰仕出し
魚 榮
田町(電話四二四番)

金銀高價買入

根本時計店

質札は(金時計鎖指輪類)有利に御相談致します
平町田町 丸新デパート